

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和4年4月28日(木) 午後2時

閉 会 年 月 日

令和4年4月28日(木) 午後2時27分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さ と み

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

4月28日	会議に附した事件
報告連絡事項	令和4年度における学校（園）施設の工事計画について

高崎市教育委員会 4 月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

今年度最初の定例会となりますので、会議に先立ちまして、人事異動に伴う職員の紹介を事務局からお願いします。

（職員紹介：小見教育部長）

教育長（飯野眞幸）

それでは、教育委員の皆様からも、改めて自己紹介をお願いします。

教育長職務代理人（塚田展子）

塚田展子です。4年目になります。よろしくお願いいたします。

委員（重田誠）

3年目の重田誠です。小児科をやっております。よろしくお願いいたします。

委員（神宮嘉一）

2年目になります、神宮嘉一と申します。PTA活動等でお世話になった方も、たくさんいらっしゃると思います。改めましてよろしくお願いいたします。

委員（田野内明美）

昨年10月からお世話になっております田野内明美です。子育て等の経験からお役に立てればと思います。今年度もよろしくお願いいたします。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

それでは、これより高崎市教育委員会4月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、塚田教育長職務代理人と神宮委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

報告連絡事項といたしまして、「令和4年度における学校（園）施設の工事計画について」の説明をお願いします。

(小池 教育総務課長 説明)

教育長（飯野眞幸）

説明がありましたように、トイレの洋式化率が今年度末で92パーセントと、かなり高い数値となる予定です。今の説明に対して、ご質問等ございますでしょうか。

委員（神宮嘉一）

トイレの洋式化率は、最終的には100パーセントを目指すのですか。現場の方からは、和式を残してもらいたいという声も割とあるような気がします。

教育総務課長（小池郁生）

小中学校については、最終的には全てを洋式化ということで、100パーセントを目指しております。

委員（神宮嘉一）

和式は、一切無いような状況になるのですね。

教育長（飯野眞幸）

今の件につきまして、色々な議論の中では出てきた話です。方向的には、100パーセントを目指そうというところで進んでいます。他にいかがでしょうか。

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局からその他、報告等ありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

次に、委員の皆様からこの際、ご意見、ご質問等があれば出していただけたらと思います。

委員（重田誠）

NHKで教職員の過重労働というか時間外労働の特集を何回か放送しています。これに関しては、以前にもご質問したのですが、高崎市は対応を良くやっている訳ですが、現状として、長時間労働の対策や問題点とか、その辺はどうなっているのかというのが1点です。もう1点は、長時間労働もあるのですが、最近はストレステストによって、教職員の中でストレスをどれくらい抱えているか、高ストレス者は面接をしなければなりません。全体としてはあがっていません。高ストレス者や精神的な問題を抱えている人に対する対応はどうなっているのでしょうか。その2点をお願いします。

教職員課長（岡田朝夫）

過重労働に対してということですが、学校については、先日、並榎中学校の記事が新聞に報道されましたが、各学校で多少違う面はあるのですが、校時表の見直しや学校行

事の精選、どういったものが本当に必要なのかというところを模索していただいている状況です。帰りについても、時間を区切ったり、日にちを限定したりということで、なるべく効率化を図っている状況です。全体の割合で、県の平均が毎月出るのですが、それよりも高崎市の方が少し良い状況です。市教委としては、これまでも会議を減らし、研修の時に持ってくる資料を減らす、あるいは学校からの訪問を減らす、そうした取組をしてきました。現在は、学校へ送る文書を4月はどうしても纏まってしまうので、後回しにできるものは、分散して送るようにしようということで、なるべく負担を軽減するような形で取り組んでいます。

教育長（飯野眞幸）

もう1つ、ストレスについてお願いします。

健康教育課長（長岡誠）

毎年ストレスチェックを行っている中で、高ストレス者は10パーセントと言われていますが、高崎市の教職員については、それを切る数値が出ております。また、面談については、ハードルが高い部分がありますので、それについては改善していければと思います。長時間労働が続く職員については、学校長の面談も考えておりますので、そういったところで、手厚く対応していきたいと思います。

委員（重田誠）

実際に面談を受けるのは、何人くらいですか。

健康教育課長（長岡誠）

具体的な数は把握していないのですが、本当に僅かです。

委員（重田誠）

ただ、僅かでも、ハードルが高くて面談に行けないという人もいるでしょうし、校長との面談において、逆に校長がストレスの原因ということもあるかもしれません。その辺も配慮をしていただければと思います。

健康教育課長（長岡誠）

改善していきたいと思います。

委員（重田誠）

それと、もう1つですが、部活動の指導者を外部から入れています、実際的に部活動の指導等において、教職員の負担は以前よりは減っていますか。

健康教育課長（長岡誠）

部活動指導員と運動部活動指導協力者、こちらの方を手厚く学校の方に派遣いたしまして、できるだけ教職員の負担を軽減させるようにしているところです。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

教育長職務代理人（塚田展子）

続けて同じことなのですが、子どもたちにとって良い教育をするために、どうしたらいいのかというと、やはりマンパワー不足、教員の不足だということです。圧倒的に学校で空いている先生がいないのです。コロナ禍の時も、一つの学校で5人、10人感染したら、誰が指導するのだろうかということを私は以前にお話しました。昨日、「クローズアップ現代」で、文部科学省がお答えしているのですが、あまり厳しいことを言えないですね。先生方が大変で、その結果、不安を感じている子どもや、親御さんもいるということ、教育関係者ではない方々がきちんとと言わないと、「国も文部科学省もこんなふうにやっていますよ」「残業はこの辺にしておりますよ」というのでは意味がありません。1つの声として、もう少しゆとりを持てるような形にしてもらいたいと思います。マンパワーをもう少し充実させていくということ、極端なことを言うと、教育にかける文部科学省の予算が少なすぎるということです。その辺を一委員として、市民として言いたいです。

教育長（飯野眞幸）

おっしゃる通りだと思います。これは全国的な問題になっていますが、とにかく教員が足りない。その足らなくなっている部分をカバーできるのかというのは、非常に難しいのです。ですから、国の方も特別に教員免許状を発行して、やってもらうことも可能ですよと言っていますが、なかなかそれで回るかというとは回りません。各学校でコロナの心配もありましたが、コロナ以外にも、病気の人が出てしまうという時に、すぐに穴を空けないように新しい人を頼む、それが非常に難しいのです。教育長の団体も国に対して毎年要望しているところなのですが、結局、財務省とのやり取りで、なかなか文部科学省側の説明では増やしてもらえない状況がずっと続いているのです。そこは、やはり国として大きく舵をきってほしいなと思っています。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（田野内明美）

交通安全についてですが、4月に子どもたちは、進級、入学等によって新しい環境で通学するようになり、おそらく各学校の先生方は安全に通学するように、一所懸命に指導、指示くださっているのかなと思います。先生方が繰り返しおっしゃってくださることで、子どもたちは小さい頃から言われていると思いますが、改めてそのことを強く意識して、安全に通学できるようになっているのかなと思っています。この間、日本自動車連盟、JAFの方とお話をする機会があったのですが、全国的に言われているのが、信号機のない横断歩道で車が止まらない、止まる車が少ないということです。群馬県は22パーセントで下の方になっているようです。ランキング1位の県が85.2パーセントという数字で、ほぼ止まるそうです。どうして車が止まるのか調査したら、これは長い年月がかかってのことと思うのですが、子どもの頃に手を挙げると必ず車が止まるそうです。そうすると子どもは手を挙げると、車が止まってくれるのだという体験を通して、自分が運転することになった時に、止まるべきだと、止まるのだということを感じます。その繰り返しで、その県は停止率が非常に高いのではないかということ

おっしゃっていました。子どもたちに、こうしなさい、ああしなさいと言うこともとても大事なのですが、大人側の方がそういうことを示してあげないと子どもは体験できないのかなと思いました。これからの大型連休で、また学校へ行きにくくなるというお子さんたちの話を聞きますので、連休明けも元気に通学してほしいなと思います。

教育長（飯野眞幸）

私もJAFの会員で、その機関紙を読んでいます。その中にもう1つ、止まる県と、止まらない県とがある中で、子どもたちが止まってくれた運転手に対して、お辞儀をしてお礼を言う、そういうのも非常に効果が高いということがありました。一環の教育のかなという感じはします。ですから、小さい頃から止まるのだということを、自分の家の車を使って教育する場面と、それから学校でも安全指導をしていますから、そういうところをアップしていかないと、なかなか順位を上げられない感じがします。健康教育課、何かありますか。

健康教育課長（長岡誠）

私が以前行った榛名地域の小学校なのですが、学校の前に横断歩道がありまして、渡った後に、ドライバーにお辞儀をする習慣が小さい頃から出来ていました。やはり、地域の方々から、子どもたちがお礼をしてくれるので嬉しいと伺っております。手を挙げてという渡る時の意思表示をしっかりと、信号機があってもなくても、必ず車が止まってから渡り始めるということを各学校で指導していますので、田野内委員さんの意見を参考にしながら、また現場に伝えていきたいと思います。

教育長（飯野眞幸）

3月末に、年度末・年度当初の事故を減らそうと、健康教育課の方でチラシを作ってくれて、全部の学校に配布しました。そうした取組をしてもらい、今のところ大きな事故は報告されていません。こういう取組を継続的にやっていくことが必要かなと思います。ありがとうございました。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（神宮嘉一）

今まで出た質問と重なるのですが、並榎中学校の取組を私も新聞で見ました。それは、掃除の時間を減らしてその部分の時間を繰り上げてといった、昨日の「クローズアップ現代」と関係ない話ですよね。内容的には、ほとんどそのままかなと思いました。並榎中学校の取組は、学校単独でやっていることなのか、ある程度、横の連携をとりながら、色々な改善をしていこうという中での取組なのか教えてください。

教職員課長（岡田朝夫）

出ている並榎中学校の取組自体は、独自で行っている取組です。色々な実践事例等は、全国的なものを含めて、ウェブに載っているところなど、色々と紹介しています。各学校は、そういったものを参考にしながら、自分の学校で取り組んでいる状況かなと認識しております。

委員（神宮嘉一）

おそらく、記事の書き方ですと、先生方には非常に効果もあるでしょうし、生徒たちにとっても、より向き合う時間が増え相乗効果があると思います。一律に同じ事をやる訳にはいかないでしょうが、ある程度、裁量を持って色々な取組が実践できるようになっていけばよろしいのではと思います。また、大きい判断だったかもしれませんが、確か、部活動を月曜日に一齐にやめるということになっていたかと思います。部活動は、外部に委託すると厳しい云々という全国的な流れや考え方もあると思うのですが、そういう中で、なかなか色々な考え方が出てきてしまうとは思いますが、子どもたちとの時間を作る、先生方の負担を減らす、あとは成長期の健康に与える影響や、やはり、勝利至上主義な考えの方も少なからずいますので、私は部活動を月曜日は全校休みにしたというのは、これは大きい判断だったと受け止めました。

教育長（飯野眞幸）

健康教育課長、何かありますか。

健康教育課長（長岡誠）

はい。月曜日は、職員会議等が入っている学校も多いため、そういったところで、部活動を休止しているところもあると聞いております。

委員（神宮嘉一）

実際にあるのですね。

健康教育課長（長岡誠）

各学校の校長先生が、教職員の負担軽減を考えながら、改善していくということは、こちらも承知しております。

教育長（飯野眞幸）

先程の並榎中学校の取組について、1つのモデルにはなると思います。教育委員会では、並榎中学校と同じようにやりなさいという、そういう指示は出してはいませんが、できれば校長会という団体があるので、校長が集まって、より良い学校運営はどうしたらいいかという中で、広がっていくべきではないかなと思っています。その辺の働きかけもお願いをしたいと思っています。

委員（神宮嘉一）

よろしく申し上げます。先日いただいた教育委員会が後援した事業の資料で、各種団体の取組、いくつかのボランティア団体の方々とお話をする機会がありまして、異口同音になのですが、教育委員会が非常に理解をしてくださって、お世話になっておりますという言葉をお聞きしたので、ご報告させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございます。それぞれのボランティア等との関わりのある課においては、継続的に対応してもらいたく思います。他にいかがでしょうか。

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。以上をもちまして、教育委員会4月定例会を閉会させていただきます。本日は、大変ご苦勞様でした。